

題材名「和音の構成音をもとに、 音のつながり方を工夫して旋律をつくろう」

第1学年 A表現(3)創作 [共通事項] (1)

◆本実践の概要

創作活動で活用するアプリを生徒がそれぞれ自分のスキルに合わせて選択し、試行錯誤しながらより良い旋律をつくる実践である。

1 単元の目標

- (1) 音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。
- (2) 旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、創作表現を創意工夫する。
- (3) 音のつながり方の特徴が生み出す雰囲気の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

2 指導事項との関連

A 表現(3)創作 ア、イ(ア)、ウ

[共通事項] (1)ア 本題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「旋律」

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知技 音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	思 旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫している。	態 音のつながり方の特徴が生み出す雰囲気の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材について

本題材では、I IV V I の和音の構成音をつかって 4 小節の旋律をつくることを課題とし、音のつながり方に関心をもち、上行、下行、順次進行、跳躍進行などの音のつながり方の特徴を生かして、表したいイメージと関わらせながら創作表現を工夫することを目標とする。

授業で使用する機器はタブレット端末と大型テレビである。タブレット端末を使用することで、生徒一人一人が創作の方法として SongMaker、バーチャルピアノ、Flat からそれぞれに最適なものを選択することが可能となる。

5 指導と評価の計画（4時間）

時	◇ねらい ○学習内容・学習活動	知	思	態
		【】内は評価方法		
1	<p>◇ I V V I の和音進行について学び、つくりたい旋律のイメージをもち、もととなるリズムを創作する。</p> <p>○教科書の例をもとに、I V V I の和音進行について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I V V I の和音進行でつくられた曲を聴き比べ、共通点を聴き取る。 ・どの曲も同じ和音進行でつくられていることを知る。 <p>○つくりたい旋律のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師から示された例をもとにして、自分なりのイメージをワークシートに記入する。 <p>○つくりたい旋律のイメージに合わせて、4小節のリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず1小節分のリズムをつくり、反復・変化を用いて4小節にする。 ・以前にリズムゲームで創作したリズムを使って4小節のリズムをつくる。 <p>*どちらかを生徒が選択してリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアでお互いのリズムを聴き合い、イメージに合ったものになっているかを確認する。 <p>○本時の振り返り、今後の学習について見通しをもつ。</p>	↓	↓	↓
2	<p>◇ I V V I の和音の構成音から音を選んで4小節の旋律をつくる。</p> <p>○前時につくったリズムに和音の構成音から音を選択して旋律をつくる。</p> <p>*「SongMaker」「バーチャルピアノ」「Flat」から創作に活用するアプリを各自で選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音のつながり方の特徴として「上行」「下行」を知り、それぞれの生み出す雰囲気の違いを感じ取る。 ・つくりたい曲のイメージに合うように、「上行」「下行」を意識して旋律を工夫する。 ・ペアでお互いの旋律を聴き合い、アドバイスをし合う。 <p>○次回以降の見通しと、本時の振り返りを行う。</p>	↓	↓	↓

3 本 時	<p>◇よりよい旋律にするために、音のつながり方の特徴を生かして旋律を工夫する。</p> <p>○「順次進行」と「跳躍進行」について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が示した例をもとに、「順次進行」「跳躍進行」の生み出す雰囲気の違いを感じ取る。 ・全体で意見を共有する。 <p>○つくりたい旋律のイメージに合うよう、音のつながり方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように旋律を工夫するかについて試行錯誤する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 順次進行をつかう 2. 跳躍進行をつかう 3. 両方をつかう ・前時に取り入れた「上行」「下行」も意識しながらさらに工夫する。 <p>*旋律の工夫に伴って、リズムを変更することも可とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアでお互いの旋律を聴き合い、アドバイスをし合う。 <p>○次回以降の見通しと、本時の振り返りを行う。</p>		<p>【思】</p> <p>【観察・作品・ワークシート】</p>	
4	<p>◇音のつながり方の特徴について、自分の表したいイメージと関わらせて理解し、旋律をつくる学習に主体的・協働的に取り組む。</p> <p>○自分のイメージに合う旋律を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のペアからのアドバイスをもち、再度試行錯誤し、旋律を完成させる。 <p>*進捗状況によって、8小節の旋律まで創作してよいこととする。</p> <p>○音のつながり方を工夫することで生み出される雰囲気の違いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で発表し合い、お互いの作品について感想を述べ合う。 ・どのようなイメージでどのような工夫をしたのかを共有する。 ・代表の作品を学級全体で共有する。 <p>○題材全体の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに創作を終えて学んだことや感じたことを記入する。 ・音のつながり方の特徴や和音進行が生み出す雰囲気の違いについて、自分の言葉でまとめる。 	<p>↓</p> <p>【知技】</p> <p>【観察・作品・ワークシート】</p>		<p>↓</p> <p>【態】</p> <p>【観察・ワークシート】</p>

6 本時の授業（第3時）

(1) 本時の目標

よりよい旋律にするために、音のつながり方の特徴を生かして旋律を工夫する。

(2) 本時の実際

過程	○学習内容 ・ 学習活動	教師の支援
導入 (10分)	○前時の復習として、リズムに和音の構成音から音を選んでメロディをつくることを確認する。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりたい曲のイメージに合うように旋律の「上行」や「下行」を工夫しながら旋律をつくる。 	
<p>展開 (30分)</p>	<p>○順次進行と跳躍進行について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が示した例をもとに順次進行、跳躍進行の生み出す雰囲気の違いを感じ取る。 ・順次進行、跳躍進行それぞれの雰囲気の違いについて全体で共有する。 <p>○自分のつくりたいイメージに合う旋律になるよう、音のつながり方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように旋律を工夫するかについて試行錯誤する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 順次進行をつかう 2. 跳躍進行をつかう 3. 両方をつかう ・前時に工夫した、上行や下行とも関わらせて旋律を工夫する。 <p>＊順次進行や跳躍進行を工夫するときに、音の流れに合うようにリズムを変えてもよいこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループになって、それぞれがつくった旋律を聴き合い、アドバイスをし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が創作した旋律を例にして、雰囲気の違いを感じ取らせる。 ・大型モニタに教師の例を示し、全体で共有できるようにする。 ・交流時には端末を持って自由に移動できるようにする。
<p>終末 (10分)</p>	<p>○本時の振り返り。</p>	



7 実践を振り返って

本事例では、「SongMaker」「バーチャルピアノ」「Flat」の3つから、生徒が自分のスキルに合わせて創作活動に活用するアプリを選択できるようにした。アプリを活用することで、打ちこんだ音をすぐに聴くことができるため、試行錯誤しながら意欲的によりよい旋律をつくろうとする姿が見られた。個人学習だけでなく、つくった旋律をお互いに聴き合いアドバイスし合う協働的な学習や、全体での共有も1人1台端末を用いて簡単に行うことができた。課題としては、簡単に音を入れることができるので、直感だけで旋律をつくることもできてしまう。思いや意図をもって旋律をつくれるような言葉かけが必要であると感じた。